

---

# スカイブルーの記憶

つちのこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スカイブルーの記憶

### 【ZPDF】

Z7602P

### 【作者名】

りのりひ

### 【あらすじ】

京都の大学に通う「あたし」と、自由気ままにバーを経営しながらも、生きていることに漠然とした不安を感じている「あなた」との出会いと別れ。

「あなた」がこの街をはなれて旅にしてしまう」とは避けられなかったのか？

ぼんやりとした寂しさで感覚を鈍らせながら、あたしは京都の街をぶらぶら歩きながら、ふたりの一年を思い出す。

そのうちに「あたし」のなかで、あたしは忘れてしまっていたひと

つの「あなた」の記憶に触れる。

雨が降りやうな空。

ぶらぶらと歩いている街がすっかり灰色で、見あげてみた空に、  
「冬なんだから、雨が降るから暗いのではなくて、季節のせいな  
んだ。」

と、ひとつぶやいた鳥を吐き出す。

あたしたちが、ふとした寂しさから陥りてしまつた落とし穴。

一年前の昨日のこと、

さめざめと小雨が降る中、傘もさすに季節はずれなほど生温かい  
三条を後にして、そして、けだるく起きた初めてのふたりの朝。

その夜、電話で呼び出された居酒屋のお座敷の置は、かなり古びて  
いた。

かさかさに傷んだ肌をなでるよつこ、イグサの綱田に指をすべらし  
て聞いていた、愛のはじまりの言葉は、  
「君のために僕たち会わない方がいいと思つただけで」  
といつ緩やかなカーブの先にある、墓標のよつなものだった。

周りの人に言えるようになるまで、かなり時間を費やしたんだ。  
この街に越してきたばかりのあなたには、そんなクダラナイしが  
らみはなかつたのかもしれないけれど。

いつものこと。

あたしの学校が終わると、待ち合わせもしないまま、近くのカフエ  
でお茶をした。

その日からあなたはいつもアイスコーヒー、あたしは「ココアフロー  
トをスプーンで食べる。

そのあとは、すっかり真っ黒に口焼けした手に包まれて鴨川の土手

に座り、ビール片手にちっちゃな打ち上げ花火を見た。

あたしには媚薬がついてるとクンクンする彼の鼻に「つか」をして、あなたの左がそっと開くと、そこにすべりこむあたし。

こつして時間は過ぎていった。

数えらんないほどのキス。

数えらんないほどの笑い声。

数えらんないほどの涙。

「あたしとあなたは、いつまで一緒にいれるんだろう?」

「そんな先のことどうだつていいよ。そつと終わつていいの一年をふたりで見送りう。」

と、やせしひつものよつにキスをして強く抱き寄せて欲しかつた。

ひとりで歩く琵琶湖疏水沿い。

なかなか雨は降りそうにない、あなたのいないう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7602p/>

---

スカイブルーの記憶

2010年12月30日23時48分発行